

---

# バトルスピリッツ 光と闇のヴルムノヴァ

龍神グラファ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バトルスピリッツ

光と闇のヴァルムノヴァ

### 【NZコード】

N3489Y

### 【作者名】

龍神グラファ

### 【あらすじ】

未来で引き金となつてしまつた馬神弾

彼が今、この世界に帰つてくる…

ジーもグラファです！

この小説は、

バトルスピリッツプレイヴを知つている人向けに描いています。

苦手な人はバックを勧めます

では読んでみてください。ちなみにこのタイトルは意味ありません。

## プロローグ

まい side

弾、あなたはいつこのせかいに帰つてくれるの？

早く帰つてきて、カレーを作つてあげるから  
ね？

いつまでも待つているからね、弾！……！

馬神弾 side

此処は……そうか、俺はあのバトルでバローネに勝つて、引き金  
になつたんだつけ？

まい、ごめんな、約束守れなかつた。本當にごめん。

俺はそんな事を思つてゐると、辺りが急に明るくなつた。  
うわ、眩しい！！

おそるおそる皿を開けるとそこには海で深さは膝ぐらいだった。砂浜へ上がり、ひづと歩き出すと見慣れた後ろ姿を見ついた。髪を切ったのか長さは違つけど間違いない。

『帰ってきたのか』

俺は空を見上げて小さくお礼を言った。そしてずっと会いたいと思つてた人の元へと向かう。

s i d e o u t

「見ててね、ダン」

そう呟いて海を背に立つ。すると後の方で水がバシャバシャと音をたてる

「帰る……」

音を気にしないで歩き出すと今度聞こえてきたのはサッサッと砂浜を蹴つて走るような音。音の持ち主は私の近くで止まつた。

なんか怖いな…。

暗いといつだけでも恐怖感がどんどん高まりなかなか振り向けなかつた。音の持ち主は一步ずつゆっくり私に近づいてくる。

「バトスピやるわぜ」

思わず肩がビクッとなる。なぜなのこのセリフに聞き覚えがあるか。

あれは私がダンを呼びに行つた時に言ったもので、誰も知るはずがない。

ゆっくり振り返るとそこには優しい笑みを浮かべたダンがいた。

「ダ……ン…」

「バトスピやるわぜ、まゐ」

「う…モ。ダン…なの…」

「ああ」

私の目の前にダンがいる…ずっと会いたいと願っていたダンがいる。

まるはダンの胸に走った。

「本郷に?・本郷に?・ダンなの?」

「もうだよ」

「夢じゃない?」

まるは信じられないといった顔で俺をまじまじと見た。

「うわやつて俺に触れてるだろ?」

「…つ会いたかった!」

涙を流し再び抱きついてきたまるを俺はそっと抱きしめ氣になつて  
いた」と聞いた。

「髪…切つたのか?」

ダンは以前より短くなつた髪を触りながら聞いてきた。

「もう満足したから、いろいろと。でも一番の理由は、光主として  
旅して た頃からソフィア町にいた時までの想い出が…あなたでい  
っぱいで辛かつたから…」

「…そうか。」めんな

「謝らないで?・髪なんてまた伸ばせば二つのよ

「でも…」

「ダンは髪、長い方が好きなの？」

「長くても短くても、俺が好きなのはお前だけだよ」

「ダン…」

ダンはまるの肩に手を置くと真剣な表情になつた。

「まぬ、待たせて」めんな

「ううん」

「…ただいま」

「おかえり、ダン」

見つめ合つた二人はお互に微笑み合い優しいキスを交わした

## 設定（前書き）

まいのいが変換できない

o r z

## 設定

馬神弾

バトルスピリッツブレイヴの主人公 別名激突王  
未来の戦いで引き金となつてきてしまつた。  
アのおかげで帰つてこれた。 元の世界に帰つてくる時に誰  
だかわからないが十一宮の×レアを渡された。  
まいとは付き合つている?

性格はブレイヴの時より冷めた性格になつている

使用デッキ

ノヴァ デッキ

ブレイヴデッキ(サジット軸)

星魂

紫乃富まい

バトルスピリッツブレイヴのヒロイン

未来で弾を失つて以来、バトルスピリッツを見るだけでのときの  
事を思い出してしまつ。しかし弾が帰つてきてからはそれは無くな  
つていて。

弾のためならなんでもする。

学校ではとても人気がある

性格はブレイヴの時と同じだが、昔のヴィオレの性格が少し混ざっ  
ている

使用デッキ

なし

## 世界設定

ブレイヴが弾たちの世界にも新しく出来ている  
バーストはまだ先 今後出す予定。

## 設定（後書き）

次からストーリーです  
新キャラ募集します！

## 第一話（前書き）

駄作ですが、見てください

## 第一話

弾 s i d e

あれから一年の時が流れた。

まさかまたプレイヴができるなんてな

で今小学生とバトルをしてくる。

『ジーグヴルムノヴァ でビズメー』

『 ライフで.....』

『君の『テツキの構築す』くいよ。頑ん！ありがとうございました  
！』

『弾君、もう、かえつていいわよ』

『わかりました』

『さてと帰るか

・前

にもこんなことがあつたような・・・

ま、いいか。

『弾、お疲れ様!』

『あ、まい、待つてくれたのか?』

『うそ、弾と少しでも戻へたいし』

今話しているのは紫之宮　まい

俺の彼女、いや、恋人だ。

帰り道

『弾、

『なんだ、まい』

『もう、いなくなつたりしないよね?……』

『またそれか、もう、お前をおいてはいかない。絶対に……』

『やつ……約束よへ。』

『ああ……』

まいの家の前

『んじや、また』

『じゃあね弾。』

さてと俺も帰るか

『光龍騎神サジット・アポロドーラゴン・・・』

「こつには、世話になつた

『サジット、これからも宜しくな。

・・・・・俺は、もつ、まいを悲しませる訳にはいかない』

その時、光龍騎神サジット・アポロドラゴンが光ったような気がした。

次の日 学校

『ルリはテストで出るから覚えておくよつじ。』

キーンゴーンカーンゴーン

『では今日はいいがでー。』

『起立。礼、着席』

ガヤガヤ、

『ふう、やつと終わった。』

『なあ、弾』

『なんだ、恭介か。』

『いっは河野恭介、俺のライバルかな？

『いいかげんまいさん俺の事紹介しろよー。』

まだ　　まいの事諦めていなかつたのか……

『無理、まいまつ、俺の者だし』

『何だと貴様ー！うなつたら、バトルで決着だー！』

『…………お前、そのセリフ何回め？まあいや、暇だからバトルし

『やめるよ

『カードショップでバトル!』

そして

『光龍騎神サジット・アポロドラゴンの合体時効果、ブレイヴの数だけ、b p10000以下のスピリットをはかいする。俺はお前の場の麒麟星獣リーンを破壊する』

『ブロッカーいない!...』

『とどめだ。サジット・アポロドラゴン

『くそ——』

いいかげん諦める。

おや?

いつの間にかギャラリーが増えている

『流石激突王！…』

『もう。付き合っている人が、……私の弾様が！…

『もういいかげん、諦める。まいは俺のだ』

『畜生、』

恭介はそういうて去っていく

さてと帰るか

『弾！』

『まい！見ていたのか』

『たまたま、ここにきたから、そしたらあなたがバトルしていく。

さつきのバトル圧勝だったね。』

『……でもまだ足りない。あのバトルフィールドでの戦い。またやりたい』

『……弾、そんな事言わないで。またあなたがいなくなったら私、もつ……』

『まい・・・・・』

『私はほつきり言うと、バトルスピリット大嫌い。だつて弾を一度死なせとようなものだし』

『まい、でも俺はここにいる』

『弾……』

『まい、……そうだ、まい、今日暇か？』

『え？ 暇だけど・・・』

『そつか、俺の家に来ないか？』

『あなた私に変な事するつもりじゃ ないでしょうね／＼』

『まいは顔を赤くして言つ、く、可憐い。』

『べ、別にそんな事じや／＼』

『そつ?ボソッ ま、弾にならなにされても、』

『? 何か言った?』

『なんでもないわ。じゃあ行こう弾!』

『ああ

## 弾の家

『相変わらず、バトスピばかりね。クスクス

『悪かったな。俺にとつては二番目に大事な物なんだから』

『一一番田は？』

『まい、お前だよ』

『弾／＼／＼』

俺はまいを優しく抱きしめる

『お前は誰にも渡らない。絶対！』

『弾／＼／＼』

この時間だけ長く感じた

## 第一話（後書き）

次回は、まいにストーカー？

弾、怒りのダークヴルムノヴァ！！

お楽しみに

# まいにストーカー

前編（前書き）

さやあ、やつちまつた。

後半、弾が狼になります。お気をつけて

# まいにストーカー

前編

まい side

今学校帰り

『じゃあね、まい』

『じゃあね、』

私は友達と別れた。

さてと帰りに弾の家に寄つていこう

\* \* \* \*

? ? ? 『ストーカー』 side

あれがネットアイドル、ヴィオレまいたん はあは～は～・・・  
まいたん何処に住んでいるかな? Twitterで掘んだ情報によ  
ると、この辺らしい。

・・・よし、後をつけるか!

\* \* \* \*

? ? ? side

やつぱり、つけられている。

助けて、弾！－

まい side

? ? 、何だらづ、変な視線を感じる。速く弾の家に行こう。

私は歩くのを速めた。

絶対君を、僕のお嫁さ

まいたんまつてよー はあはあ  
んこしてあげるからね。ぐひひ

\* \* \*

まい side

あれから結構走った。何とか振りきれたみたい。  
の前だ。やつとついた

あ、弾の家

弾なら、何とかしてくれるよね。

私は弾の家のドアを開ける

『弾！助けて！』

弾 s.i.d.e

今俺は、ノヴァデッキを改造している

『うーん、やっぱり、安定性を高めるためにサイレントウォールは三枚積みにして、えーとそれから、』

『弾！助けて！』

急にドアが開いて、まいが抱きついてきた

『うわ！・・まいか どうした急に』

『グス、実は……』

まいに話を聞く

『成る程、ストーカーか、許せない』

『弾、どうすればいい?』

まいが上田遣いで聞いてくる。く、可愛いじゃないか。キスしたくなる。我慢だ我慢

『とりあえず、今日は俺の家に泊まっていけ。まだストーカーがいるかもしれない!』

『・・・弾も大胆ね。』

『馬鹿／＼そんなんじゃない』

ちなみにいい忘れていたが、俺の両親は海外に出張している。  
だからいつも1人

『解ったわ、お母さんにメールをうつしておく』

『ああ、明日は休みだ。ゆっくりしていけ。』

『うん・・・　　あ、この「トック」って、確かに弾とバトルしたとき私が使ったダブルノヴァ……懐かしいな』

『ああ、今改造していたんだ。どうしても事故率は高いし。  
それにしても、あのときばびっくりしたな。いきなり告白してくれる  
し。』

『馬鹿／＼／＼あのときはつゝ、あなたが、あの闘いで引き金を引く  
の止めたくつて。え、きやー。』

『気がついたら俺はまいを押し倒していた

『ちよっと弾一・じつしたの急に、離してー。』

俺は「んな」と言つていた……

『まー、もう、俺はもう限界だ。俺とプレイ、してくれ。』

『・・・いつかこんなことがあるのを覚悟はしていた、私でよかつたら、そのかわり優しくしてね。／／／』

『まい／＼／＼』

俺とまいは一つになっていた・・・

まいにストーカー

前編（後書き）

次回、ストーカーと決着！

## ティックレシピ

## ダブルノヴァ

ダブルノヴァのレシピです

スピリット

ブレイドラ

ヤシウム

超新星龍ジーク・ヴルムノヴァ

極龍帝ジーク・ソルフリード

雷皇龍ジーク・ヴルム

ソウルホース

ビジョン・ヘディレス

ソードール

滅神星龍ダーク・ヴルムノヴァ

ジーク・ヴルムヴェガ

マジック

エクストラドロー

ビッグバンエナジー

サイレントウォール

デルタバリア

サジックタフレイム

メテオストーム

ブレイヴ

ペンドラゴン

ネクサス  
灼熱の谷1

です。できるだけアニメに近づけました。ブレイドラは定番ですよ  
ねw  
ちょくちょく変わりますが……基本はこれです  
何かあつたら言つてくれると助かります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3489y/>

---

バトルスピリッツ 光と闇のヴルムノヴァ

2011年11月17日19時15分発行